

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 3 日現在

機関番号：11501

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23310173

研究課題名(和文) 世論調査による中東諸国民の政治意識と政治体制の相互関係の解明

研究課題名(英文) Relation Between Political Attitudes and Political Regime in the Middle East

研究代表者

濱中 新吾 (HAMANAKA, Shingo)

山形大学・教育文化学部・准教授

研究者番号：40344783

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,000,000円、(間接経費) 3,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中東地域政治の動向を決定する上で各国政府が注視する一般大衆の政治意識が、近年の政治変動の中でいかに再構成されたのかを分析することで、対象国内の政治エリートと大衆の関係や体制の安定しない不安定化の要因を解明するとともに、こうした内政と外交政策がいかに連動し合っているかを探ることを目的とする。

1)政治的認知地図はイラク、イスラエル、パレスチナにおいて記述され、その解明がなされた。2)政党支持態度を通じた分析は、「エジプトとシリアにおいて政変の帰結がなぜ異なったのか」という問いに答える研究を生み出した。3)越境移動に関する研究では、レバノンを対象とした調査で通説を見直す進展が見られた。

研究成果の概要(英文)：This study explores the correlations between the ordinary people's political attitudes and several aspects of the political regimes in the Middle East in order to find a major determinant of regime stability and what a kind of connection between domestic and foreign policy.

The findings are as follow, (1) The political mental maps are described as the the people's recognition of the foreign affairs in Iraq, Israel, and Palestine. (2) The research of a party support structure provided an answer to the question why the consequences of Egyptian and Syrian uprisings were different. (3) The migration research project produces a revision of the perceptions of the Lebanese toward cross-border movement.

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：世論調査 政治意識 政治体制 政党支持態度 越境移動

1. 研究開始当初の背景

中東は21世紀を迎えて10年を経てもなお、多くの紛争を抱えた地域である。2003年のイラク戦争によってサダム・フセイン政権が崩壊した後、イラクは利権を巡って政治勢力間の合従連衡と武力衝突が渦巻く国となった。イスラエルは建国以来、常に周辺諸国と占領下にあるパレスチナにとっての脅威である。イスラエル-シリア間の和平交渉が再び俎上にあがろうとしているが、双方の思惑やねらいは不透明である。

これまで中東政治の分析においては、当該地域がおおむね権威主義的な統治下にあるため、世論調査は不適切と見られてきた。しかしながら、シリアの現地調査によって、政権が政策立案に先立って世論調査を含む多様な手法で情報収集を行っていることが明らかになっている。ゆえに、世論調査と調査データの計量分析は、地域の政治主体の視点に沿った現実的な分析を可能にする手段となっている。

2. 研究の目的

本研究は、中東地域政治の動向を決定する上で各国政府が注視する一般大衆の政治意識が、近年の政治変動の中でいかに再構成されたのかを分析することで、対象国内の政治エリートと大衆の関係や体制の安定/不安定化の要因を解明するとともに、こうした内政と外交政策がいかに連動し合っているかを探ることを目的とする。

この目的を達成するため、現地研究機関との協力(調査委託)に基づく全国規模の直接面談方式もしくは電話による世論調査を実施し、得られた調査データの計量分析を行い、それを踏まえた上で比較政治学的、地域研究的な視点から中東地域政治の動的な把握を試みる。世論調査の多角的分析と解釈を通じて比較政治学と地域研究の課題を架橋することで、これまででない現実的かつ包括的な結果が期待できる。

3. 研究の方法

本研究計画で明らかにしたい三つの課題、すなわち「中東諸国民の政治的認知地図の解明、政党支持態度の構造、および国際移動経験と意識」を解明するため、平成23年度にイラク世論調査およびイスラエル世論調査、24年度にレバノン世論調査およびパレスチナ世論調査、そして平成25年度にエジプト世論調査を実施した。世論調査では各国国民を母集団とし、多段階無作為抽出法で標本となる世帯から回答者個人を特定した。各国とも標本数が800になるよう調査設計した。

4. 研究成果

(1) 中東諸国民の政治的認知地図はイラク、イスラエル、パレスチナにおいて記述され、

その解明がなされた。

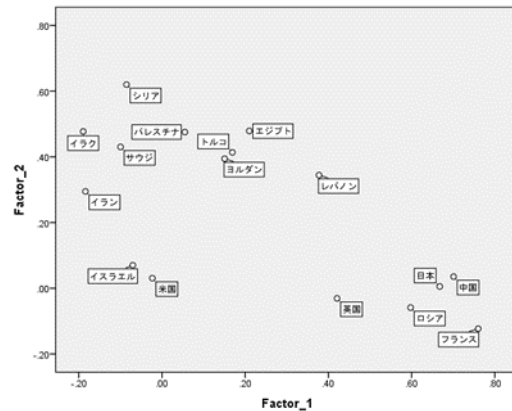


図1: イラクの政治的認知地図

イラク国民は中東の国際関係を「復興貢献への期待」(横軸)と「安定化への不信」(縦軸)によって位置づけていると考えられる。そして右下のイスラエルと米国を「占領・敵国陣営」、露・仏・日・英・中を「経済支援国陣営」、シリア・イラン・サウジを「イラク翻弄国陣営」として認知し、自国を翻弄国陣営の中に位置づけていた(図1参照)。

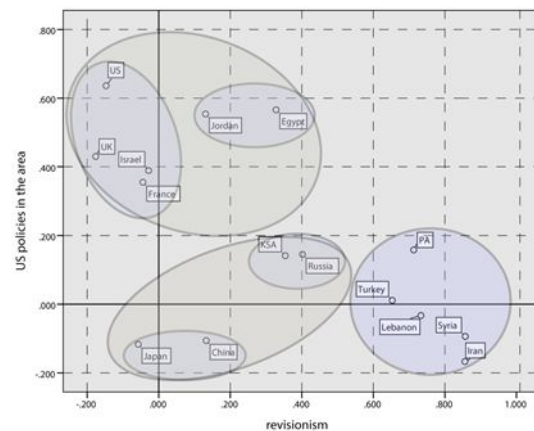


図2: イスラエルの政治的認知地図

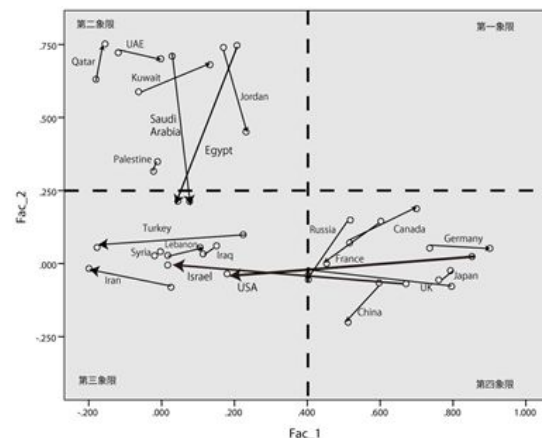


図3: パレスチナの政治的認知地図

イスラエル国民は中東の国際関係を「現状秩序の見直し(revisionism)」(横軸)と「米国の対中東政策との近似性」(縦軸)によって把握しているとみられる。シリアとイラクを中心とする中東諸国は「急進派陣営」を構成しており、米・英・仏と自国によって「欧米による現状維持勢力」を担っている。エジプトとヨルダンが現状維持勢力に追随している。現状維持勢力と急進派陣営との二極構造システムが中東における国際関係の基本構図であることが分かる(図2参照)。

パレスチナ人は中東の国際関係を「中東地域に対する関与の度合い」(横軸)と「地域におけるアクターの安定性」(縦軸)によって認識しているとみられる。図3はアラブの春の前後において中東諸国および域外大国の外交的関与や政変に対する各国政府の安定度を表している。矢印の長さは政変前と政変後におけるポジションの違いの大きさを表している。

(2)政党支持態度を通じた分析は、「エジプトとシリアにおいて政変の帰結がなぜ異なったのか」という問いに答える研究を生み出した。この研究によればそれぞれの体制支配政党である国民民主党とバアス党の支持構造において、国民民主党支持はバアス党支持に比べて小さく、さらに支持態度を説明する変数がより少ないことが明らかになった。すなわち、エジプトの与党支持構造は政変前の段階で腐食しており、体制が動揺しやすい状態にあったのだ。

イラクにおいては政党支持構造の分析を手がかりに、地域政治が各宗派から無条件に支持を調達できる状況いわゆるエスニック政治に規定されているわけではなく、各党の政策的志向性にも左右される部分の大きいことが明らかにされた。すなわち「修正宗派主義」という見方がイラク政治の分析視角として適切であることが示された。

(3)越境移動に関する研究では、レバノンを対象とした調査で進展が見られた。レバノン人に対して「様々な言語を自由に操り、商才に長け、進取と革新の精神に富んだ人々が、母国と世界をまたにかけて活躍している」という通念がある。この通念ないしステレオタイプを「新しいフェニキア人」と呼んでおくと、果たして実際のレバノン人がこのような通念通りに人々なのかどうか、という問いを立てることができる。本研究計画の調査データを分析したところ、現在レバノン国内に居住している市民は概して国際的な越境移動の経験に乏しく、また移動に対する関心も低いことが明らかにされた。従って「新しいフェニキア人」は地方名望家(ザイーム)階層に属するごく一部のレバノン人に対するイメージに過ぎず、このイメージに基づいて中東地域研究を行うことは危険だという結論に達した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 15 件)

浜中新吾「アラブ革命の陰で—パレスチナ人の国際秩序認識に反映された政治的課題」『国際政治』,査読有り,第 178 号, 2014, (印刷中).

山尾大・浜中新吾「宗派主義という隘路—イラク世論調査に見る政党支持構造の分析を手がかりに」『日本中東学会年報』,査読有り,第 30 巻 1 号, 2014, 37-68.

山尾大「安定化した政党政治 第 3 回イラク地方県議会選挙の分析」『イスラーム世界研究』,査読有り,第 7 巻,2014, 298-319.

HAMANAKA, Shingo “Determinants of attitude toward political parties in Palestine:

The effect of the Egyptian Revolution on the adherents of Fatah and Hamas,” *Asian Journal for Public Opinion Research* 1(1), 2013,7-25. 査読有り.

NISHIKIDA, Aiko and HAMANAKA, Shingo “Palestinian Migration under the Occupation: Influence of Israeli democracy and Stratified citizenship,” *Sociology Study* 3(4), 2013, 247-260. 査読有り.

青山弘之「シリア 武力紛争の二年半は何だったのか—欧米の思惑と跋扈するジハーディスト—」『世界』,査読無し,第 849 号, 2013, 236-242.

高岡豊「「潜入問題」再考 シリアを破壊する外国人戦闘員の起源」『中東研究』,査読無し, 516 号, 2013, 83-91.

MIZOBUCHI Masaki and TAKAOKA Yutaka, “The Myth of the “New Phoenicians”: Are Lebanese People Really Cosmopolitans?” *Mediterranean Review* 6(1), 2013, 83-112. 査読有り.

YAMAOKA Dai, “Sectarianism Twisted: Changing Cleavages in the Elections of Post-war Iraq”, *Arab Studies Quarterly*, 34 (1), 2012, 27-51. 査読有り.

高岡豊、浜中新吾、溝淵正季「レバノン人の越境移動に関する経験と意識」『日本中東学会年報』,査読有り,第 28 巻 1 号, 2012, 35-58.

HAMANAKA, Shingo “A Political Mental Map of the Palestinians,” *Annals of Japan*

Association for Middle East Studies 27(2), 2012,
29-56. 査読有り.

山尾大「“ハイジャック”された『アラブの春』 サドル派の政策転換とイラク政治の動態」『中東研究』, 査読無し, 513号, 2012, 82-93.

高岡豊「シリア: 2012年人民議会選挙から見るアサド政権の機能と基盤」『中東研究』, 査読無し, 515号, 2012, 101-109.

高岡豊「アサド政権の基盤と反体制抗議行動 - 抗議行動への対抗から考察する - 」『中東研究』, 査読無し, 512号, 2011, 53-61.

浜中新吾「ハイブリッド型権威主義体制の与党支持構造: エジプト・シリアの比較分析」『アジア経済』, 査読有り, 第52巻12号, 2011, 2-30.

〔学会発表〕(計 4 件)

山尾大・浜中新吾「イラクにおける政党支持構造とその変容」日本政治学会 2012年研究大会・分科会、九州大学、2012年10月6日。

HAMANAKA Shingo “Determinants of the Attitude toward Political Parties in Palestine,” paper presentation at the 22nd World Congress of International Political Science Association, July 10, 2012.

NISHIKIDA Aiko and HAMANAKA Shingo “Palestinian Migration under the occupation,” Migration and Democracy, 12th International Congress, Luxembourg, June 14, 2012.

浜中新吾「ハイブリッド型権威主義体制における支配政党の支持構造」日本比較政治学会 2011年研究大会・分科会、北海道大学、2011年6月18日。

〔図書〕(計 1 件)

山尾大『紛争と国家建設——戦後イラクの再建をめぐるポリティクス』明石書店、2013, 304.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：

発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/aljabal/namatiya2.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

濱中 新吾 (HAMANAKA Shingo)
山形大学・地域教育文化学部・准教授
研究者番号：40344783

(2) 研究分担者

青山 弘之 (AOYAMA Hiroyuki)
東京外国語大学・総合国際学研究院・教授
研究者番号：60450516

山尾 大 (YAMAOKA Dai)
九州大学・比較社会文化研究科・講師
研究者番号：80598706

(3) 連携研究者

錦田 愛子 (NISHIKIDA Aiko)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・助教
研究者番号：70451979